



# 平成灯台守

2026. 4 月号

発行/御前埼灯台を守る会

## 復元灯明堂の修繕決まる

灯台入口にある見尾火灯明堂が令和 8 年事業で修繕されることが 3 月 24 日開かれた市議会 2 月定例会で決まりました。

灯明堂は寛永 12 年 (1635) に江戸幕府が設置した我が国最初の灯明堂で、今の灯台が建設される明治 4 年までの約 240 年間、村人が毎夜火の番を行い、御前埼沖を航行する船の安全を見守ってきました。

旧御前埼町では、この歴史的事実を後世に伝えるとともに観光資源の一役にもなればと、平成 6 年に灯明堂設置 360 年、御前埼灯台建設 120 年を記念して復元しました。



しかしこの間 30 年、木造の建物は潮風、風雨にさらされて老朽化やシロアリ被害が進み修繕が急務となりました。

昨年 6 月末に灯明堂の話題が新聞に掲載されたところ、浜松市内の工務店から土台や柱などの建材寄贈の申し出があったことから御前埼職工組合 (木村敏行代表) の協力を得て調査、修繕方策の検討がされてきました。

灯明堂を管理する市商工観光課では年内には完成させたいとしています。〈M. sai〉

## 灯台を守る会に企業 16 社が入会

令和 6 年 5 月には御前埼灯台の 150 歳を祝う「御前埼灯台点灯 150 周年記念事業」が盛大に行われました。灯台を守る会ではこの日のために積み立てて来た財源も底を



## 灯台エメラルドタイムに歓声

12 月 6 日、燈光会、市観光協会共催の灯台夕暮れ参観が御前埼灯台で行われ、灯台を守る会は灯台資料館の開設や灯台点灯時のエメラルドタイム、見尾火灯明堂の案内などを行いました。

尽き、今後の活動費不足が見込まれることから、市内の企業・団体を訪問して支援・協力をお願いしたところ多くの会社が入会してくれました。企業・団体会員は既に支援いただいている上岬区町内会、南駿河湾漁業協同組合、(株)増田建設に加えて、大石建設(株)、(株)大澤組、御前埼港運(株)、(株)御前埼工務所、(合)御前埼バイオテクノロジー、御前埼プラスチック(株)、御前崎まちづくり(株)、川口興産(株)、鈴与(株)、(株)セイショウプラント、ナカジマ鋼管(株)、日光水産(株)、(株)榛原電業、(株)フルカワ、(株)古川組、(株)ホンダカーズ中央静岡御前崎店の 19 社となりました。

その他、個人会員としても多くの方に入会していただきました。

令和 8 年 3 月末の会員数は個人会員 157、企業団体会員 19 の合計 176 となりました。

## 港湾建設工事安全協議会から支援金

灯台を守る会は、御前埼港港湾工事安全工事協議会 (石川祥也会長) より令和 8 年度から今後 5 年間、年 10 万円の活動費を支援していただけることになりました。

灯台資料館の開設や灯台資料の調査収集、PR など保護保全、伝承活動に活用させていただきます。〈H. sawa〉

## 灯台建設時の感謝状寄贈される

御前埼灯台建設に左官として従事した、下岬区の故・鈴木弥吉さんに国から贈られた感謝状が、昨年秋に子孫の鈴木文人さんから灯台を守る会に寄贈されました。



感謝状は明治7年5月29日付で、現場監督をしていた遠州御前崎出張 燈臺小属 今武高光が鈴木弥吉さんに贈ったもので、文面には「しゅつせい あいつとめにつきくたしおかれそうろうこと」と記されています。

鈴木家では戸棚のガラス戸枠を利用した手作りの額に入れ、家宝として長い間座敷の鴨居に掲げられていましたが、灯台 150 周年記念を知った鈴木文人さん（大分県在住）が、「灯台資料館で役に立てれば先祖も本望」と寄贈してくれました。〈M. sai〉

## 調査研修

### 名古屋港と野間埼灯台へ調査研修

灯台を守る会では、昨年 10 月 27 日に名古屋港海上交通センターと野間埼灯台への調査研修を行い、会員 24 名が参加しました。名古屋港海上交通センターは、名古屋港



## 御前埼灯台を守る会通信

のほぼ中心の金城ふ頭先端に設置され、高性能レーダーや船舶識別装置等を活用して海上交通の安全を守り、効率性を図る「海の管制官」の役割を果たしています。

船舶に対する航行管制は、航路ごとに設けられた信号所に管制信号を電光文字で表示して行われ、これにより国内外からの数多くの大型貨物船が湾内をスムーズに航行していました。国際貿易港として重要な役割を果たす名古屋港。説明をする職員にプロフェッショナル集団としての自信と責任感が強く感じられました。

野間埼灯台は、伊勢湾を臨む浜辺（愛知県知多郡美浜町）に立つコンクリート造、高さ 18m の愛知県最古の灯台です。

地域団体の“美浜まちラボ”が灯台を町の活性化につなげる活動に取り組んでおり、この活動を通じて令和 4 年から新たに灯台の一般開放が可能になりました。



当日は活動の中心となっている林達之さんから、「登れる灯台化プロジェクト」の内容や関連する各種イベント、灯台グッズの開発、宿泊施設とのコラボ等について講演をいただき、「灯台が人を導き地元の未来を照らす」との言葉には、灯台を地域の核にしていこうとする熱意が込められていました。林さんは小学校教師をしていましたが途中退職し、現在は観光協会職員として活躍されています。

なお、今回の調査研修ではこれまで名古屋港でパイロット（船の水先案内人）をされていた広沢区の横山良一会員が、移動するバス車内でパイロットの仕事などについて詳しく説明してくれました。〈M. kama〉